

## 第5回 こども・教育・文化部会 意見交換「論点」

- 令和5年度「文化」検討テーマ  
次世代への文化の継承、担い手の育成
  
- 背景
  - ・ 地域では豊かな文化芸術が受け継がれてきているが、少子高齢化や過疎化などの課題に直面し、文化芸術の次世代への継承、担い手の育成等に関して危機的な状況にある。地域においては、住民の参画を得ながら、茶道、華道をはじめとする生活文化や、古典芸能、祭り、民俗芸能等を継承し、更に発展させるなど、歴史や風土等から培われてきた文化を基に、新たな発想や技術等を加えることで、地域の文化芸術の魅力を高めていくことが求められている。
  - ・ そのような中、地方創生の一環として進められてきた文化庁の京都移転を契機に、長官をトップとした食文化と文化観光を推進する組織が新設されるなど、文化による地方創生の進展がより一層期待されている。
  - ・ 国においても文化芸術推進基本計画（第2期）が策定され、『文化芸術を通じた地方創生の推進』や『文化芸術を通じた次代を担う子供たちの育成』等が重点取組として挙げられている。
  
- 方向性  
地域の生活文化、古典芸能及び民俗芸能等の継承や振興に向け、財政支援や担い手の不足などへの課題について、国への提言を行う。
  
- 論点

- ・ 指定都市が抱える文化芸術の担い手の高齢化・減少などの実態
  - ・ 現状の課題を踏まえた、伝統芸能や生活文化をはじめとする文化芸術の継承、担い手育成の施策、及び国（文化庁）に求めること

（次のページに続きます）

○ 令和5年度「教育」検討テーマ

子どもを守り、学びと育ちを支えるための持続可能な学校体制づくり

○ 背景

- ・ 子どもを守り、学びと育ちを支えるための持続可能な学校には、教育に携わる教職員全員とスクールカウンセラーなどの多様な専門家が一つのチームとして対応することが求められている。
- ・ 教員においては、長時間労働や病気休職者の増加など、教員の過酷な勤務実態が明らかとなる中、全国的な教員採用試験倍率の低下や若年退職者の増加、産育休や病気休職者の補充者がすぐに確保できないという深刻な教員不足と、大量退職・大量採用により、若い年代の増加と経験不足が課題となっている。
- ・ 教科以外の専門的な知識・経験を有する、学校外の専門家等の多様な人材の確保等も急務となっている。

○ 方向性

子どもを守り、学びと育ちを支えるための持続可能な学校体制づくりに向けて、教員の負担を軽減し、心身ともに健康で働きやすい職場環境をつくるための、給与を含めた処遇改善や制度改正、教員と専門的な人材の確保等に向けた取組について、国への提言を行う。

○ 論点

子どもを守り、学びと育ちを支え、子どもが主体的に多様な生き方を選択できる社会を実現するためには、教員や多様な専門家等が子どもとしっかりと向き合い、生き生きと働き続けられる持続可能な学校体制づくりが必須であり、以下の対策を中心に議論する。

- ・ 給特法の整備当時から社会情勢が大きく変わっていることを踏まえた、優秀な人材確保にもつなげる給与制度面の処遇改善
- ・ 育児や介護等多様な働き方を後押しするための定数改善
- ・ 「チーム学校」を支える支援スタッフや専門家等の人材確保と定数化

(参考)

第6回子ども・教育・文化部会に向けて、指定都市20市の、検討テーマに沿った「教育・文化施策に関する各市の先進的な取組」を取りまとめる予定